



～夢を育てる学校

自慢の学校～

国立二小だより

平成27年10月1日

国立市立国立第二小学校

校長 小林 理人

挑戦の秋・・・10月に期待すること

校長 小林 理人

「芸術の秋」「読書の秋」「スポーツの秋」そして、「食欲の秋」。秋は様々なことに**挑戦**できるすばらしい季節です。この**挑戦**について、多くの悩める人を勇気づけた「心の名医」として知られる齋藤茂太氏が次のような言葉を残しています。

「新しいことに**挑戦**するときに、もっとも大切なことは、現在の自分の能力を考慮してできるかできないかを予測することではなく、『やる気』があるかないかである。これを忘れてはならない。」

齋藤茂太氏の言葉にある「やる気」は国立二小のよさであり、裏面で報告する夏休みの野外体験教室でも5年生の姿からそれを感じたことは前にもお伝えしました。

この国立二小のよさである「やる気」で様々なことに**挑戦**する姿を紹介します。

子供たちの挑戦 「放課後の活動」

国立二小には、中学校の部活動のような放課後の活動があります。そして、その活動は国立市の事業と連携、調整を図りながら、地域や保護者の皆様のお力をお借りして、子供たちの多様な活動の場を保障し**挑戦**の場、自己肯定感を高める場となっています。

午前7時30分、国立二小ドッジボールクラブの子供たちの朝の練習が始まります。そして、その練習は「おはようございます。」の大きな声での挨拶から始まり、それが国立二小の「やる気」「元気」の源になっています。

放課後は、放課後キッズに参加する子供たちの歓声が校庭いっばいに響き、外国語ルームで行われている放課後学習教室では、指導員の方から指導を受けている6年生の子供たちが熱心に学び、音楽室からはコンサートを重ねるたびに磨きがかかる金管バンドの子供たちの演奏が聞こえてきます。

先生の挑戦 「校内研究」「授業改善」

校内研究は子供たちの学力を向上させるために児童の実態からテーマを設定し、教師の生命線である授業の改善を図ることを目的に行われています。言い方を変えれば、子供を育て、子供の学習を支える教師の**挑戦**です。

今年度は昨年度の児童へのアンケート結果※から

「自分の考えに自信をもち、表現できる児童の育成」を研究のテーマとしています。

そして、具体的な方法として2つを考え、授業の改善に**挑戦**をしています。

一つは「学習の課題（学習のめあて）を教師が一方向的に示すのではなく、子供の学ぼうという意欲や学ぶ必要があるといった必要感を大切にすること」です。そうすることで子供たちが主体的に学習に参加するようになり、自分の考えをもったりそれを進んで表現したりできるようになると考えています。

次に、「様々な個性やニーズをもった子供たちの全てが、安心して学習が進められるように、分かりやすい授業を行うこと」です。教師が「全ての子供」を意識して授業を進めることでどんな子供でも自分の意見や考えをもち、それを表現することに自信がもてるかと考えています。

裏面に紹介した外国語活動もこうしたわたしたちの**挑戦**の一つです。

このように子供たちや教師が自分の得意なことや課題を意識し、様々なことに「**挑戦**」し、豊かな実りが学校いっばいに広がることを期待します。

※昨年度のアンケートで「自分の意見や考えを、進んで発言することができる」の肯定的な評価の割合が

67.1%と他の項目に比べて低かったことから研究テーマとしました。

9月の学校便りでお知らせした今年度の中間まとめでは「自分の意見や考えを、進んで発言することができる」の肯定的な評価の割合は80%になっています。